



平成21年4月25日

照会先：厚生労働省健康局結核感染症課

課長：梅田（03-5253-1111内線2370）

担当：江浪（03-5253-1111内線2373）

直通：03-3595-2257

メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患 の発生状況について

今般、メキシコにおいて、インフルエンザ様の症状を示す比較的重い呼吸器疾患が流行しているとの情報、また、米国においては、ヒトの間で豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）によるインフルエンザが発生しているとの情報があったことから、別紙のとおり対応することといたしましたので、情報提供いたします。

国民の皆様には、正しい情報に基づいた冷静な対応をお願いします。

1. メキシコにおける呼吸器疾患の状況等

- WHOからの情報によると、メキシコにおいて3月18日から4月23日までの間に、59例の死亡例を含む854例のインフルエンザ様症状のある患者が発生したとのこと。
- このうち18例については、カナダにおいて豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）であることが確認されており、12検体については米国で報告されている豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）と遺伝学的に同一と報告されている。

2. 米国における豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）によるインフルエンザの状況等

- WHOによると、米国政府は7人の豚インフルエンザ（H1N1）確定症例（5人はカリフォルニア在住、2人はテキサス在住）と9人の疑い例を報告した。確定症例7人のうち、1人は短期間の入院を要したものの全員軽度のインフルエンザ様疾患であり、死亡例の報告はない。

3. 厚生労働省の対応

(1) 情報の収集と提供

健康局に情報共有連絡室を立ち上げ、WHO等から情報を収集。収集された情報については、迅速に提供。

なお、米国疾病管理センター（CDC）がホームページにおいて公表している情報については、4月24日に都道府県担当者に情報提供。

(2) 流行地に渡航される方への注意喚起

検疫所において、流行地に渡航する方に広報資料を配布する等して注意喚起。

(3) 流行地から帰国される方への対応

検疫所において、発熱されている方をサーモグラフィーにより確認。

メキシコからの帰国者に対して、インフルエンザ様症状がある場合には、検疫所に申し出るよう呼びかけ。

発熱、咳などの急性呼吸器症状を有する方には、健康相談室において診察を実施。（必要に応じて医療機関で治療）

(4) 医療関係者への情報提供

各自治体を通じ、医療機関に対し、治療方法等の情報を提供。

(5) 電話相談窓口の設置

本日（25日）夕方までに厚生労働省において一般の方からの電話相談窓口を開設。

対応時間：25日 開設～午後9時 を予定

26日 午前9時～午後9時 を予定

27日以降 追って決定します。

電話番号：03-3501-9031

(参考1)

メキシコ及び米国におけるインフルエンザ様疾患の発生状況について
WHOホームページ
(仮訳)

2009年4月24日

米国政府は7人の豚インフルエンザ (H1N1) 確定症例 (5人はカリフォルニア在住、2人はテキサス在住) と9人の疑似症例を報告した。確定症例7人のうち、1人は短期間の入院を要したものの全員軽度のインフルエンザ様疾患であり、死亡例の報告はない。

メキシコ政府は3つの異なった事例を報告している。メキシコ連邦において、サーベイランスにより、3月18日からインフルエンザ様疾患が捕捉され始めた。4月を通してその数は着実に増加し、4月23日までに、首都圏から854人以上の肺炎患者が発生されている。そのうち、59人は死亡している。メキシコ中部のSan Luis Potosiから24人 (うち3人死亡) が報告されている。米国との境界にあるMexicaliからは、4人 (死亡者なし) が報告されている。

メキシコの例では、18人がカナダにおいて豚インフルエンザ (H1N1亜型) と確認されており、そのうち12人はカリフォルニアの豚インフルエンザ (H1N1亜型) と類似性が認められた。

これらの大多数は、若年健常人において発症している。インフルエンザは通常、幼児か高齢者が罹患するが、メキシコにおいては、これらの年齢層では特に重大な影響が見られなかった。

動物のインフルエンザウイルスに人が感染した症例であること、地理的に離れた場所で流行が広がっていること、通常みられない年齢層が罹患していること、等からこれらの事例は非常に危惧される事例である。

今回の流行でみられた豚インフルエンザウイルス (H1N1亜型) はこれまでに豚や人で検出されたことがない。このウイルスは今のところ、オセルタミビルには感受性を示すが、アマンタジン及びリマンタジンには耐性である。

WHOはこのインフルエンザ様疾患のリスクをより理解するために米国、メキシコ及びカナダの保健当局と密接に連携している。WHO (とPAHO) は当地の保健当局と作業を行うために専門家をメキシコへ派遣している。WHOは加盟国の疫学調査、検査診断や臨床管理の強化を支援している。GOARNのWHOのパートナーは、加盟国からの要請に応じて支援する用意がある。

これは仮訳です。かならず、原本をご確認ください。
http://www.who.int/csr/don/2009_04_24/en/index.html

米国における豚インフルエンザ（H1N1亜型）の状況等

CDCは、カリフォルニア州（サンディエゴ、インペリアル）とテキサス州（サンアントニオ）の二つの州において、豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）の人への感染例について、継続的な調査の実施に基づき、最新情報を更新、掲載している。

○ 現在の感染症例（平成21年4月24日現在）

豚インフルエンザの人への感染例	
州	確定症例数
カリフォルニア	6
テキサス	2

※ 毎日、米国時間午後3時（日本時間午前4時）に更新

○ カリフォルニア、テキサス住民に対し、今現在は豚インフルエンザウイルスに対応するワクチンがないため、感染防止対策を実施することが重要であり、以下について推奨・警告している。

- ・ 咳やくしゃみをする際はティッシュで鼻と口を覆うこと。使ったティッシュはゴミ箱へ捨てること。
- ・ 頻繁に石鹸水を使って手洗いをする、特に咳やくしゃみのあとは徹底すること。アルコール製剤は効果的である。
- ・ 健康状態の悪い者との濃厚接触を避けること。
- ・ もし具合が悪くなったら、仕事や学校を休み、外出をひかえること、他の者との接触を避けること。
- ・ 目、鼻、口に触らないこと。
- ・ 呼吸器症状（咳、鼻水等）や、身体の痛み、吐き気、嘔吐や下痢など、健康状態が悪くなった場合は、かかりつけ医に連絡すること。かかりつけ医がインフルエンザ検査をするかどうか決める。

○ また、CDCは関係者に対し、以下のように呼び掛けている。

- ・ 臨床医は、熱性呼吸器症状のある患者で、カリフォルニア州（サンディエゴ、インペリアル）や、テキサス州（サンアントニオ）に住む者、その地域に旅行した者、発症までの7日以内に、これらの地域の健康状態の悪い者に接触した者は、同インフルエンザの可能性を考慮すること。
- ・ 州立公衆衛生検査機関は、全ての亜型を決定できないインフルエンザAの検体を、迅速にCDCに送ること。
- ・ 公衆衛生動物衛生技官は、豚インフルエンザウイルスの感染源、発生状況とタイムリーな対策の必要性を決定するための患者と接触者の調査を実施すること。

（出典：CDCホームページ <http://www.cdc.gov/flu/swine/investigation.htm>）

豚インフルエンザについて

1. 疫学等

豚インフルエンザは、A型インフルエンザウイルス（豚インフルエンザウイルス）の感染により、通常、豚にインフルエンザを引き起こすが、死亡率は低い。発生は、一年を通して起こりうるが、人の発生と同様、晩秋から冬の期間に多い。

豚インフルエンザで認められるA型ウイルスのタイプは、H1N1亜型、H3N2亜型等が主要なものである。ヒトで通常のインフルエンザを引き起こすH1N1亜型等のウイルスがあるが、異なる株である。

2. 人への感染

(1) 感染経路

通常、人に感染しないが、豚と直接接触した場合に散発的に感染することがある。

人から人に感染した例の報告もあるが、これまで集団発生には至っていない。

※：米国CDCには、2005年12月から2009年2月までで12例の報告あり

(2) 症状

通常のインフルエンザの症状に類似し、発熱、脱力、食欲不振、発咳などがみられる。鼻汁、咽頭痛、吐き気、下痢がみられることがある。

(3) 診断

発症後4～5日以内に上気道からの検体を採取して実施する。

豚インフルエンザウイルスであることは、遺伝子検査等で確認する。

(4) 治療

抗インフルエンザ薬の投与（今回米国で検出されたウイルスでは、オセルタミビルやザナミビルの投与が推奨されている）

※：アマンタジンやリマンタジンへの耐性が認められている。

(5) 予防

現在、ヒト用のワクチンはない。

(参考資料：米国CDCホームページ)

豚インフルエンザウイルス (H1N1亜型) に関する
米国疾病管理センター Q & A
(仮訳)

○豚インフルエンザについて

豚インフルエンザとは何ですか？

豚インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスによって起きる豚の呼吸器疾患です。豚においては、定期的に大流行を引き起こしています。豚インフルエンザウイルスは豚で高い発病率を示しますが、致死率は低いです。豚インフルエンザウイルスは、年間を通じて、豚の間で循環しているようですが、ほとんどの集団発生は、人での流行期と同じ晩秋と冬です。豚インフルエンザウイルス (H1N1インフルエンザA型ウイルス) が初めて分離されたのは、1930年のことです。

豚インフルエンザウイルスは何種類ありますか？

すべてのインフルエンザウイルスと同様、豚インフルエンザウイルスも、絶えず変異しています。豚は豚インフルエンザウイルス以外にも、鳥インフルエンザウイルスとヒトインフルエンザウイルスに感染します。別の動物種のインフルエンザウイルスが豚に感染すると、ウイルスの再集合 (遺伝子交雑) が起こります。その結果、豚インフルエンザウイルスと人インフルエンザウイルスあるいは鳥インフルエンザウイルスの遺伝子が集合し、新型インフルエンザの発生にも関連すると考えられています。長年の間、何種類もの豚インフルエンザウイルスが出現していますが、現時点では、4つの主要な豚インフルエンザウイルスの亜型が豚から分離されています。すなわち、H1N1、H1N2、H3N2、H3N1です。ただし、最近では、豚から分離されたウイルスの亜型のほとんどはH1N1です。

これは仮訳です。かならず、原本をご確認ください。
http://www.cdc.gov/flu/swine/key_facts.htm

○人における豚インフルエンザ

豚インフルエンザは人に感染しますか？

豚インフルエンザウイルスは通常、人には感染しません。しかし、散発的には豚インフルエンザの人への感染が発生しています。最も多い人への感染事例としては、豚に直接接触した場合に発生しています。例えば、フェアで子供が豚に触ったり、豚肉を加工する職場で職人が豚に触れるといったケースです。また、1人の感染者から他の人に豚インフルエンザが広がった事例も報告されています。例えば、1988年にウィスコンシン州で豚の間で広がった感染が複数の人にも及びました。このときはコミュニティでの集団感染はありませんでしたが、患者から感染したことを証明する抗体が、患者と密接に接触した医療従事者から確認されました。

豚インフルエンザの人への感染は頻繁に起こるのですか？

過去の記録によれば、米国疾病管理センター（CDC）は、米国において1～2年に1例の発生報告を受けています。ただ、2005年12月から2009年2月にかけては、12の人への感染事例が報告されています。

豚インフルエンザの人に現れる症状は何ですか？

季節性のインフルエンザの症状に似た症状がでることが予想され、また熱、倦怠感、食欲不振、咳が含まれます。また、鼻水、のどの痛み、吐き気、嘔吐や下痢などの症状を発する人もいます。

豚を食べると感染しますか？

いいえ。豚インフルエンザは、豚肉や豚肉の加工品を食べることによって感染するものではありません。適切に扱われ、調理された豚肉製品を食べても安全です。中心温度71℃での豚肉の調理により、他の細菌やウイルスと同様、豚インフルエンザウイルスは死滅します。

これは仮訳です。かならず、原本をご確認ください。
http://www.cdc.gov/flu/swine/key_facts.htm

豚インフルエンザの感染はどのように広がりますか？

豚から人へ、人から豚へ直接感染することがあります。人へ感染するほとんどの場合は、感染した豚に接触することによってです。また人から人へ感染することもあります。これは、季節性のインフルエンザの感染経路と同様です。つまり、咳やくしゃみによるインフルエンザウイルスの飛沫から感染すると考えられます。また、ウイルスの付着したものに触り、その触った手指で口や鼻に触ることで感染する、接触感染の可能性もあります。

豚インフルエンザが人から人へ感染したことがありますか？

1988年9月、健康な32歳の妊婦が肺炎のため入院し、8日後に死亡し、豚インフルエンザウイルスH1N1が検出されました。この患者は、病気になる4日前に豚の品評会を訪れており、そこでは、豚の間でインフルエンザ様の疾病が広がっていました。追跡調査によると、この品評会への出展者のうち、76%の人に豚インフルエンザウイルスに対するの抗体が確認されました。しかし、深刻な症状は確認されませんでした。追加調査によれば、患者と濃厚接触のあった医療従事者の4人に1人の割合で、軽度のインフルエンザ様症状が現れ、豚インフルエンザウイルスに感染した証拠となる抗体が確認されました。

ヒトの感染の診断はどのようにしますか？

一般的に、病気の最初の4～5日以内の上気道検体を採取して診断します。ただし、一部の患者、特に子供については、感染してから10日間もしくはそれ以上、ウイルスを排出することもあります。豚インフルエンザウイルスと特定するためには、検体をCDCに送る必要があります。

治療薬はありますか？

米国では、4種類の承認された抗インフルエンザウイルス薬（アマンタジン、リマンタジン、オセルタミビル、ザナミビル）があります。ほとんどの豚インフルエンザウイルスは、この4つの薬が効いていますが、ヒトから分離された直近の7事例の豚インフルエンザウイルスにおいては、リマンタジンとアマンタジンには耐性がありました。現時点では、CDCは豚インフルエンザウイルス感染の治療や予防にオセルタミビルやザナミビルを投与することを推奨しています。治療の推奨に関するさらなる情報は、www.cdc.gov/flu/swine/recommendations.htm まで。

これは仮訳です。かならず、原本をご確認ください。
http://www.cdc.gov/flu/swine/key_facts.htm

豚インフルエンザの集団発生の例は他にありますか？

おそらく、最もよく知られているのは、1976年にニュージャージー州・フォートディクスで起きた、兵士たちの間で流行した事例です。X線検査でウイルス感染からの肺炎が確認され、少なくとも4人の兵士にウイルス性肺炎を認め、1名が死亡しました。この5人とも感染前は健康でした。基地での訓練中に密接に接触したグループ内で感染したものと考えられています。このウイルスは約1か月間まん延し、その後、消滅したと思われます。ウイルスの由来や、フォートディクスへ侵入した正確な時期、および感染拡大の要因とその流行期間とについてはよく解っていません。このフォートディクスでの集団発生は、冬の間人口が集中する施設内に動物由来のウイルスが侵入したことだったかもしれませんが。フォートディクスの兵士から収集された豚インフルエンザA型ウイルスはA/New Jersey/76 (Hsw1N1) と名付けられました。

豚インフルエンザウイルス (H1N1亜型) はヒトのH1N1亜型ウイルスと同じですか？

違います。H1N1亜型の豚インフルエンザウイルスは、人のH1N1亜型のウイルスと抗原性が大きく異なっています。ですから、季節性インフルエンザワクチンが、豚インフルエンザウイルスの感染を防止することはできません。

○豚における豚インフルエンザ

どのように豚の間で豚インフルエンザの感染が広がりますか？

豚インフルエンザウイルスは、ほとんどの場合、豚と豚との間における密接な接触を通じて感染が拡大します。また、感染した豚と感染していない豚の間では、汚染物を介して感染が広がる可能性も考えられます。豚インフルエンザに感染している群とワクチン接種を行っている群は、散発的に症状を発生させることもありますし、軽い症状か、あるいは症状を示さない感染を起こすこともあります。

豚が豚インフルエンザに感染した徴候は、何ですか？

突然の発熱、活動の低下、咳、くしゃみ、目や鼻からの分泌、呼吸困難、目の充血や炎症、餌を食べなくなる等です。

豚の間で豚インフルエンザはよく起きているのですか？

米国の、豚の集団内では、H1N1亜型とH3N2亜型の豚インフルエンザウイルスが特有です。豚での流行は、普通は寒い時期（晩秋や冬）か、感染しやすい群れの中に新たな豚を導入した時に起こります。研究によると、豚のなかでは、豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）が全世界的に広まっています。25%は感染した結果、抗体をもっていると考えられます。豚の30%がH1N1亜型の豚インフルエンザウイルスの感染により抗体をもっており、さらには、米国の中北部の豚の51%が同様の抗体をもつことが研究で示されています。ヒトへの感染はまれです。最近では、豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）に感染した豚に反応してできた抗体と、豚にワクチンを接種して産生された抗体と区別する方法はありません。H1N1豚ウイルスは、少なくとも1930年以降豚の間で感染していることが知られており、H3N2亜型の豚インフルエンザウイルスは1998年まで、米国の豚にはありませんでした。N3N2ウイルスは、最初は人から豚に感染しました。現在の豚インフルエンザH3N2ウイルスは、ヒトH3N2ウイルスと密接に関係しています。

豚インフルエンザのためのワクチンがありますか？

豚の豚インフルエンザ感染を防ぐためのワクチンがありますが、人への感染を防ぐワクチンはありません。季節性インフルエンザワクチンがH3N2亜型の豚インフルエンザに一部効果があるようですが、H1N1亜型の豚インフルエンザウイルスに対しての効果はありません。

これは仮訳です。かならず、原本をご確認ください。

http://www.cdc.gov/flu/swine/key_facts.htm

メキシコ・米国へ渡航される方へ 感染症の予防のお知らせ

現在、メキシコにおいて、インフルエンザ様の症状を示す、比較的重い呼吸器疾患が流行しています。また、米国（カリフォルニア州、テキサス州）においては、豚インフルエンザウイルス（H1N1亜型）の感染例が報告されています。

これらの地域に渡航する方は次のことに注意しましょう。

＜渡航時には＞

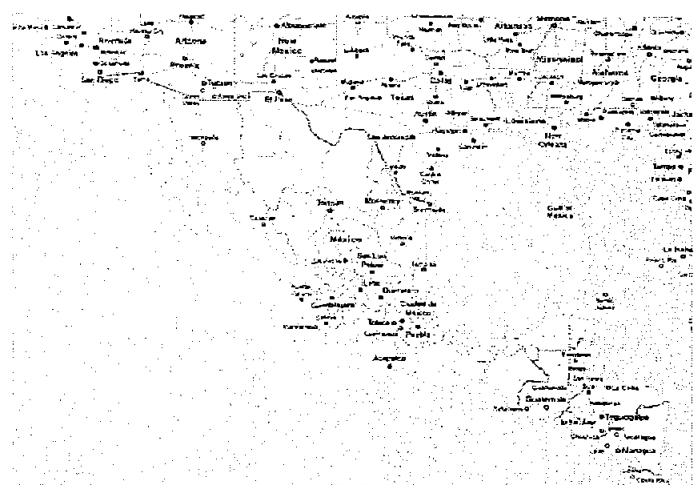
- 咳やくしゃみ等による感染を防ぐため、マスクを着用する。
- 積極的に手洗いやうがいを行う。
- 発熱や咳などインフルエンザ様の症状がみられた時は、現地の医療機関を受診する。

＜帰国時には＞

- 発熱や咳などインフルエンザ様の症状がみられる方は、検疫所へご相談ください。

◎流行している疾患の特徴

- ・WHOからの情報によると、メキシコにおいて3月18日から4月23日までの間に、59例の死亡例を含む854例のインフルエンザ様症状のある患者が発生したとのこと。
- ・症状は、発熱、倦怠感のほか、咳、鼻汁、咽頭痛などの呼吸器症状などとされています。



平成21年4月25日 ○○検疫所